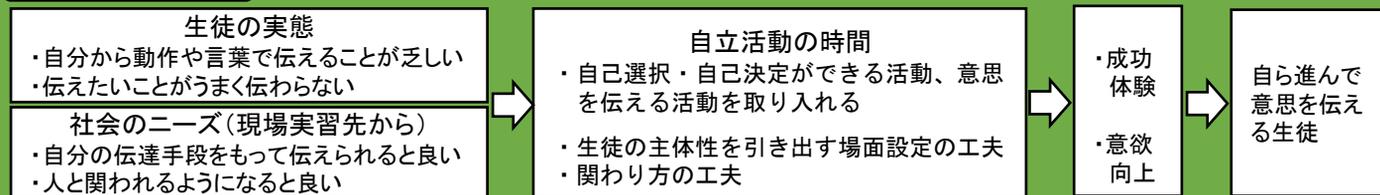


# 特別支援学校高等部における自ら進んで意思を伝える生徒の育成

—生徒の主体性を引き出す場面設定や関わり方の工夫を通して—

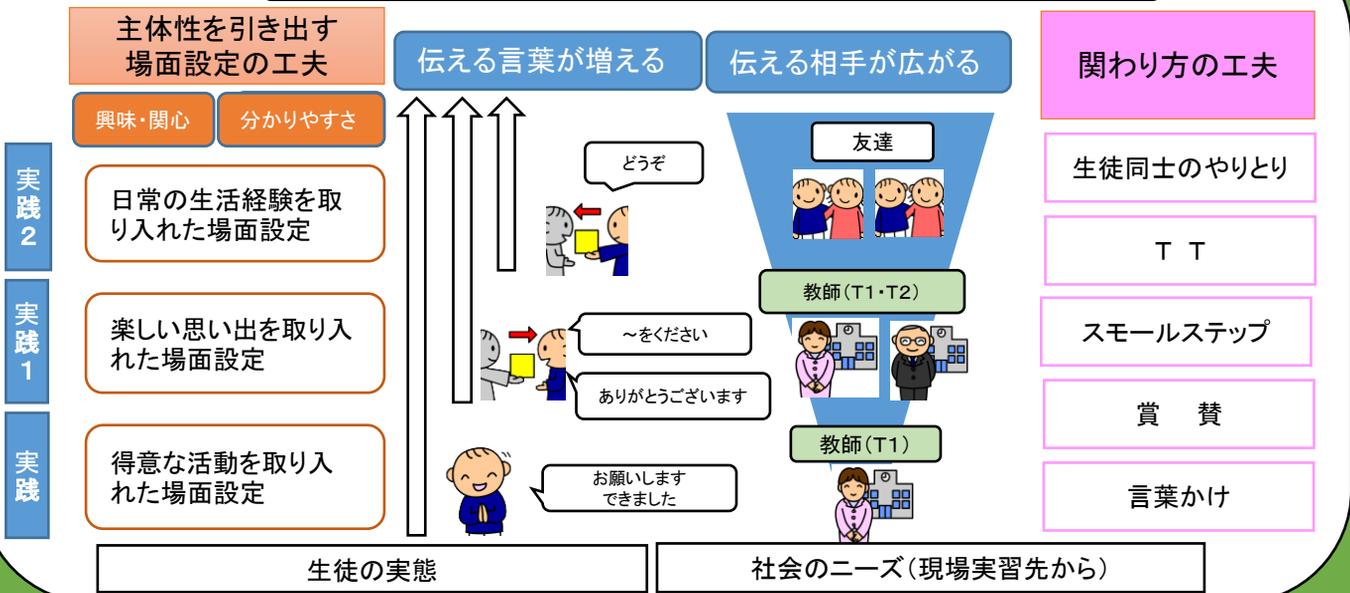
## 主題設定の理由

特別支援教育班 鏡 明子(特別支援学校教諭)



## 研究の構想

### 目指す生徒像 自ら進んで意思を伝える生徒



## 授業実践

|                 | 実践  | 実践 1  | 実践 2  |
|-----------------|---|---|---|
| 題材名             | 困ったときは先生に伝えよう   | 先生や友達に伝えよう  |   |
| 主体性を引き出す場面設定の工夫 | 教材を完成させる場面<br>不足が分かる教材を用意する。  | 修学旅行での機内サービス場面<br>大型テレビに飛行機や機内の写真を映す。   | レストランでの注文場面<br>エプロンやテーブルクロスで雰囲気づくりをする。  |
| 関わり方の工夫         | 言葉かけ<br>言葉が出ないときは生徒の反応を待つ。待っても出ない場合は動作やきっかけの言葉(「お」で)で促したり、文字カードを示したりする。<br>「お願いします」と伝えられましたね<br>賞賛<br>伝えられたときは具体的に賞賛したり、教材が完成したときは花丸カードを渡したりする。 | T T<br>役割演技を行い、学習課題の理解を促す。<br>スモールステップ<br>好きな食べ物を2種から選び、飲み物を4種から選ぶなど選択肢を増やしていく。           | 生徒同士のやりとり<br>メニューをどうぞ<br>ハンバーガーをください<br>どうぞ<br>ありがとうございます   |
| 学習の様子           | 教材が足りないことに気づき、自分から教師のところに来るようになった。教師がきっかけの言葉を話すと、「お願いします」と伝えられた。教師が賞賛するとうれしそうな表情を見せ、次の課題に一生懸命取り組んでいた。   | 修学旅行の思い出の写真を映したら、全員がよく見ていた。TTの役割演技やスモールステップによって学習課題が分かりやすくなり、生徒が好きな食べ物や飲み物を主体的に伝えようとしていた。 | 選択肢を徐々に増やしたところ、全員が8種の中から選ぶことができた。生徒が客と店員の役をするときに教師が生徒同士の距離を縮めるように促したところ、言葉や食べ物カードのやりとりができるようになってきた。 |

## 成果

- 生徒の興味・関心や分かりやすさに配慮した場面を設定したことにより、生徒の伝えようとする意欲を引き出すことができた。
- 生徒の実態に応じて関わり方を工夫したことで、成功体験を積み重ねながら、次第に自分から動作や言葉で相手に伝えるようになってきた。

## 課題

- 特定の場面から更に日常生活に即した場面へと広げていけるように場面設定を意図的に行う。
- 友達に動作や言葉で伝えようとする姿が増えるよう、教師の関わり方を更に工夫する。